

ヒジキ

Hizikia fusiformis (Harvey) Okamura

ヒバマタ目 ホンダワラ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

これまで知られていた能登の3箇所の群落の内、人工護岸の能登島町野崎の群落は消失。自然岩礁の能登町姫はかつての生育面積に比べ10%まで減っている。同自然岩礁の志賀町福浦の群落に変化ない。新たに、5箇所の人口構造物に群落が発生したが、その後衰退が進行している。

形態

葉は円柱状で多肉質、食用となる。

国内分布

北海道南部、本州太平洋岸、四国、九州、本州日本海中・南部、南西諸島。

県内分布

自然岩礁では能登町姫と志賀町福浦に小さな群落、同赤住に2株が生育している。新たに造成された離岸堤や護岸の5箇所で群落を認めたが、その後、衰退している。このほか、5箇所の人口構造物で、1株から数株の生育を認めた。

生態

潮間帯下部に群落を作る。

生育地の条件

干満の差がある潮間帯に生育する。また、ウミトラノオとの競合関係がよく知られている。

生存の危機

元金沢大学理学部臨海実験所技官の新谷 力氏（故人）によれば、能登町姫の群落は昭和20年代時には幅10m以上と大規模で、地元では食用に利用したという。現在は幅1mしかない。（D）

特記事項

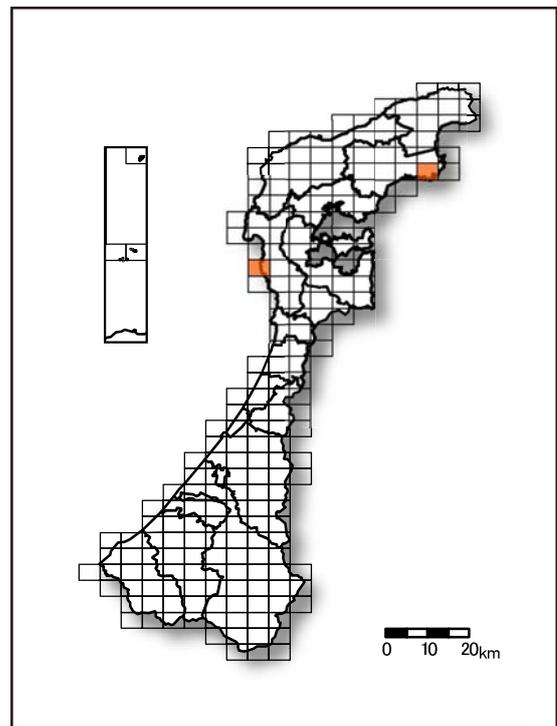
干満の差の少ない本県沿岸における潮間帯特性と生物の関係を知る上で貴重な海藻である。

参考文献

佐野 修. 1988. 春は海からやって来る. 石川の四季と自然, 12p. 石川自然誌研究会, 金沢
 東出幸真・池森貴彦・新井章吾・佐野修, 2004. 石川県におけるヒジキの分布概況. のと海洋ふれあいセンター研究報告, 第10号: 17-20



写真提供者: 佐野修



県内の分布

マルバアサクサノリ

Porphyra kuniedae Kurogi

ウシケノリ目 ウシケノリ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

珠洲市狼煙海岸でしか採集されていない。飯田湾から七尾湾にかけての内湾域での生育が期待されるが、この地域でのアマノリ属海藻の調査は不十分である。しかし、全国的に本種の野生種の発見は限られており、本県での生育数も微々たるものと考えられる。

形態

体は卵形、円形、半円形。高さ5～10cm、幅4～15cm。縁辺は全縁、雌雄同株、雌雄の部分は体の縁辺部に混じって生じる。精子嚢斑は体上部では体の内側に向かって縦に伸びる縞状となる。

国内分布

自然分布は本州太平洋岸北部、古くは養殖対象種で、瀬戸内海と有明海で採集されたことがある。

県内分布

珠洲市狼煙。

生態

河口域とそれに隣接する内湾域の潮間帯に生育する。

生育地の条件

河口域とそれに隣接する内湾域。

生存の危機

糸状体の時期は貝殻片の中で過ごす。その上に泥が堆積すると光合成ができなくなる。河川上流での森林伐採やダム建設などに伴って、河口域に泥の堆積が進むと次第に衰退する（三浦，1998）。

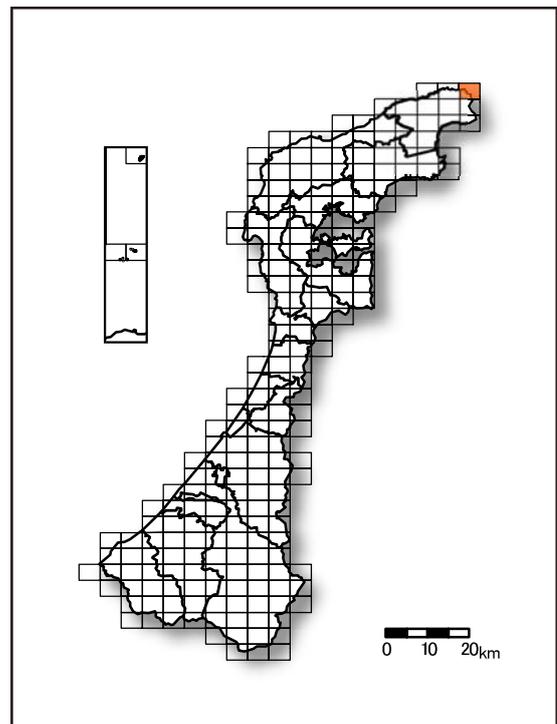
(A)

参考文献

佐野 修. 1984. 冬の味覚—岩ノリ—. 能登の自然, 110-111. 石川自然誌研究会, 金沢
 三浦昭雄. 1998. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）. 306-307. 日本水産資源保護協会, 東京



写真提供者：佐野修



県内の分布

ホソエガサ

Acetabularia caliculus Lamouroux

カサノリ目 カサノリ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

浚渫等により一部の生育地で、消失が確認されている。能登半島がカサノリ科海藻の世界の北限地として知られる。また、日本では今の所、確実に採集できるのは能登沿岸しかない。本県にとって貴重な海藻である。

形態

体は高さ4～5cmになり、茎部は石灰質を沈積する。成長の初期（6～7月中旬）は毛状葉を輪生し、成長する（7月下旬～9月）と頂部に傘状部を付ける。傘は、風で裏返しになったような形で、直径は5mmくらい。

国内分布

本州太平洋岸中・南部、瀬戸内海、九州、本州日本海岸中部。

県内分布

能登沿岸の旧13市町村の内10市町村で記録がある。特に能登内浦では新産地が次々と知られてきている。

生態

貝殻やウニの殻などに付着生育する特性があり、能登沿岸では砂地のアマモ場の中あるいはやや沖合のウミヒルモ群落内に形成される貝類の遺骸堆積地で見出されている。ここは、白い貝殻片が明るく輝いているので砂泥質の海底との区別は容易である。

生育地の条件

波浪などの影響で貝殻片が集積される「貝類の遺骸堆積地」に限る。貝殻片は、付近に生息する貝類に由来しており、多様な貝類が豊富に生息していることが大切な条件となる。

生存の危機

県内では、さしあたっての生存の危機はない。しかし、本種が生育し続けるには、海底で光合成するのに十分な光を届ける透明度の高い海水を、また貝類が豊富に生息する環境を維持する必要がある。現状維持が存続の条件と思われる。

特記事項

近年の日本においては能登沿岸以外では思うように採集されず、瀬戸内海や伊勢湾ではすでに絶滅したと考えられることから石川（1998）は絶滅危惧種とした。

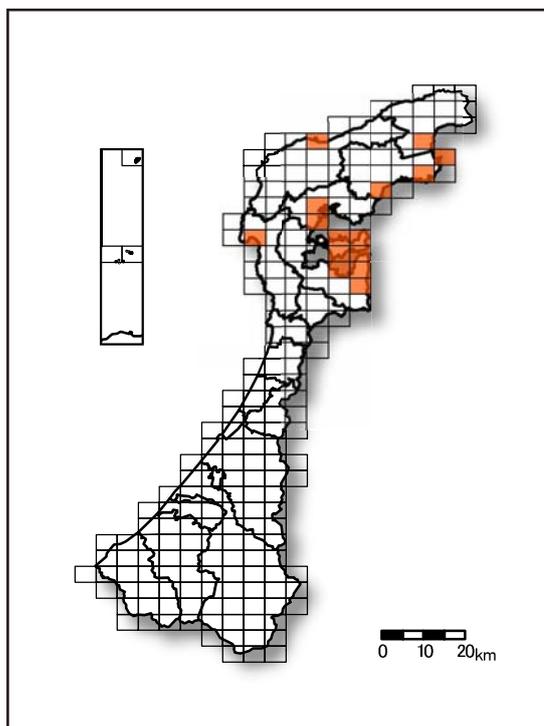
参考文献

佐野 修・池森雅彦・新崎盛敏. 1981. ホソエガサの能登半島における分布と生態. 藻類, 29: 31-38.

石川依久子. 1998. ホソエガサ. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）, 348-349. 日本水産資源保護協会, 東京



写真提供者: 佐野修



県内の分布

イシゲ

Ishige okamurae Yendo

ナガマツモ目イシゲ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

国カテゴリー

なし

選定理由

干満の差が少ない本県では稀にしか発見されない。

形態

体は10cmくらいになり、又状に分岐する。質はかたい。

国内分布

本州太平洋岸中・南部、四国、九州、本州日本海岸中・南部。

県内分布

旧富来町、輪島市、能登島町から報告がある。

生態

本州太平洋岸中部において、イロロ、イワヒゲと共に潮間帯中部に大きな群落を作る。

生育地の条件

干満の差がある潮間帯中部。

生存の危機

もっぱら潮間帯中部に生育する本種にとって、干満の差が少ない本県沿岸は不安定な環境と思われる。

特記事項

ヒジキと同様に、本県沿岸における潮間帯特性と生物の関係をj知る上で貴重な海藻である。



写真提供者：新井章吾

分布図はありません。

県内の分布

シダモク

Sargassum filicinum Harvey

ヒバマタ目 ホンダワラ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ なし

選定理由

海藻関係者の間では古くから本種の生育が注目されていたが、舟橋（1967）が採集し、北海道大学理学部に保管されている標本が県内では唯一のものである。分布の北限に位置し、本来、数少ない海藻と考えられる。

形態

アカモクに似るが、気胞が球形から楕円形ないし紡錘形で、円柱状のアカモクと区別する。また、雌雄同株である。

国内分布

太平洋岸関東以西、日本海岸能登半島から九州西岸、瀬戸内海。

県内分布

能登町立壁。

生態

1年生で春から夏に成熟する。

生育地の条件

漸深帯。

生存の危機

県内での生態が不明で言及できない。

特記事項

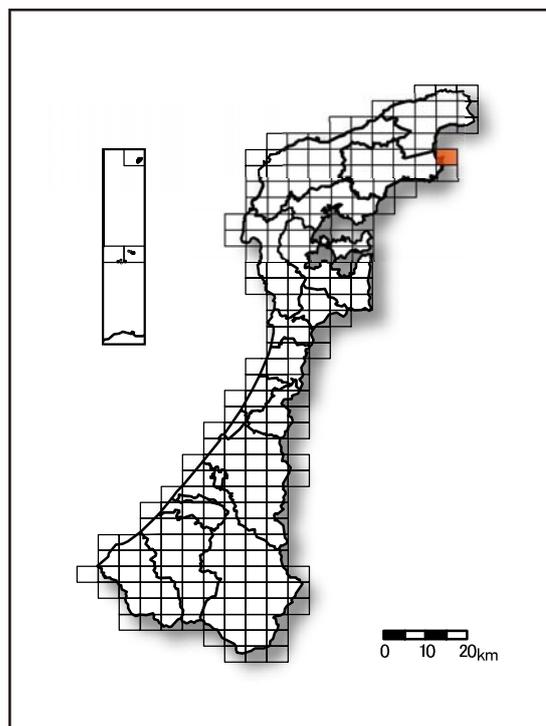
流れ藻や打上げ藻の中には出現している。

参考文献

舟橋説往. 1967. 能登臨海実験所付近の海藻. 金沢大学能登臨海実験所年報, 7: 15-36.



写真提供者: 新井章吾



県内の分布

ホソナガベニハノリ

イギス目コノハノリ科

石川県カテゴリ

準絶滅危惧

国カテゴリ

なし

Hypoglossum nipponicum Yamada

選定理由

羽咋市柴垣がタイプ産地だが、県内での発見例は少ない。穴水町で採集されている。

形態

体は9cmくらいまでのゆるく絡み合った塊を形成し、枝は線状で細く幅約1cm。質は薄い膜質。

国内分布

本州日本海岸。

県内分布

羽咋市、門前町、穴水町、七尾市から報告がある。

生態

漸深帯に生育する。

生育地の条件

富山県では、時々砂を被るような転石帯に多い。マクサなど他の海藻に着生することもしばしば。入善町沿岸に大群落があり、氷見市や魚津市などでも時折みつかるとも。

生存の危機

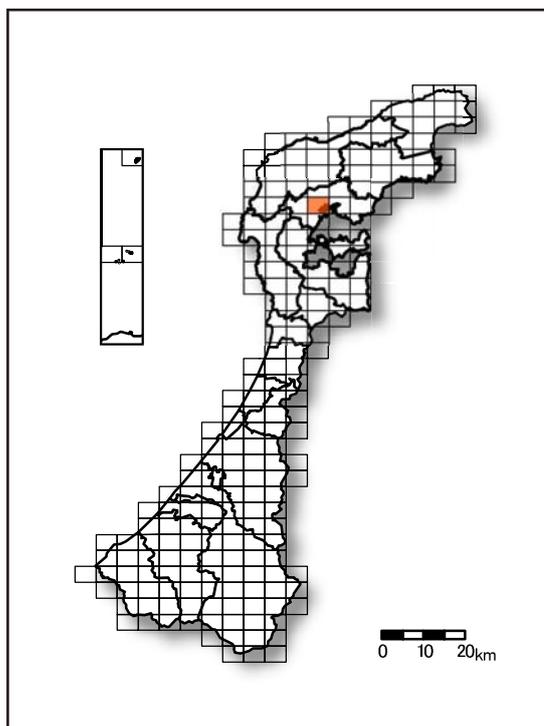
県内での生態はよく分かっておらず言及は避ける。

特記事項

今後、富山県の例を参考に、転石帯での調査が必要である。



写真提供者：藤田大介



県内の分布

ノトイトグサ

Polysiphonia notoensis Segi

イギス目フジマツモ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

国カテゴリー

なし

選定理由

羽咋市柴垣がタイプ産地だが、近年の発見例はない。

形態

他の海藻の上に房状に生育し、高さ5.5～10cmになる。色は暗褐色。

国内分布

本州日本海岸中・北部。

県内分布

羽咋市、輪島市、内浦町から報告がある。

生態

他の海藻につくこと以外はよく分かっていない。

生育地の条件

よく分かっていない。

生存の危機

生態が不明で言及できない。

写真（図）はありません。

分布図はありません。

県内の分布

キクメイシモドキ

Oulastrea crispata (Lamarck)

イシサンゴ目キクメイシ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ なし

選定理由

造礁サンゴの間では能登半島が世界の群生分布の北限地であり、学術上貴重である。

形態

殻皮状またはかたまり状の群体をつくり、骨格はチョコレート色か紫黒色。莖の直径は5mm位で、莖と莖の間には溝があるか結合する。ポリプは緑褐色。

国内分布

日本海沿岸は新潟県以南、太平洋沿岸は館山湾以南に分布する。

県内分布

能登半島の内浦海岸、能登町から七尾市（七尾北湾と南湾）にかけて分布し、九十九湾と九里川尻湾に群生地がある。外浦海岸では志賀町の福浦と大島に生息する。

生態

内湾の潮間帯から水深3mほどの潮下帯の岩上に見られる。群体の長径は5cm前後のものが多く、昼間でもポリプを開いていることがある。

生息地の条件

陸からの砂泥の流入が激しくないこと。

生存の危機

以前は釣り餌のイワムシ捕りの影響で附着基盤を含む破壊が顕著であったが、現在は埋め立てや道路造成などによる生息環境の変化が懸念される。

特記事項

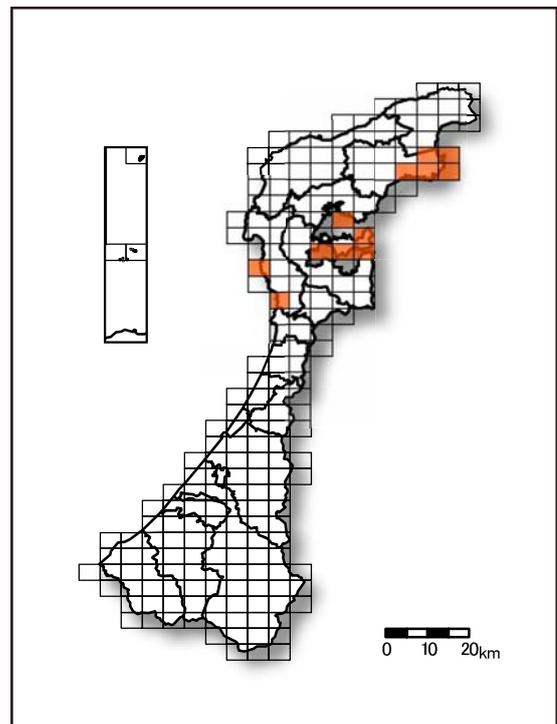
造礁性イシサンゴ類の中では水温10℃以下でも生育し、低温耐性がある。

参考文献

矢島孝昭・佐野修・岡本武・白井芳弘・新谷力・又多政博. 1986. 能登九十九湾周辺海域におけるキクメイシモドキ *Oulastrea crispata* (Lamarck) の生態分布
Veron, J. E.N., 1992. Hermatypic Corals of Japan.



写真提供者：岡本武



県内の分布

ムツサンゴ

イシサンゴ目キサンゴ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ なし

Rhizopsammia minuta mutuensis Yabe et Eguchi

選定理由

他の道府県では類をみないほどに能登半島の内浦海岸を中心に広く分布し、かつ生息密度も極めて高い。

形態

各個虫は石灰質の共骨で連絡し、莖は直径5mm、高さ8mm以下。触手は48本で共肉は美しい黄色またはオレンジ色をしている。

国内分布

陸奥湾が模式産地。日本海沿岸は小樽以南から若狭湾までと隠岐に分布する。太平洋沿岸では三陸海岸、相模湾、伊豆半島、大阪湾と瀬戸内海に分布する。

県内分布

能登半島の内浦海岸を中心に広く分布し、外浦海岸でも散見される。

生態

やや開放浜の岩礫性潮間帯の低潮位から水深3mほどの比較的平坦部で、ホンダワラ類が生育する仮根周辺を中心に生育している。場所によっては、浮き転石上でも見られる。

生息地の条件

陸からの土砂の流入や海洋汚染がないこと。

生存の危機

現在、人為的影響による生息環境の破壊はみられないが、堤防の設置や埋め立てなどの漁港の整備・拡張に伴う生息環境の破壊が懸念される。

特記事項

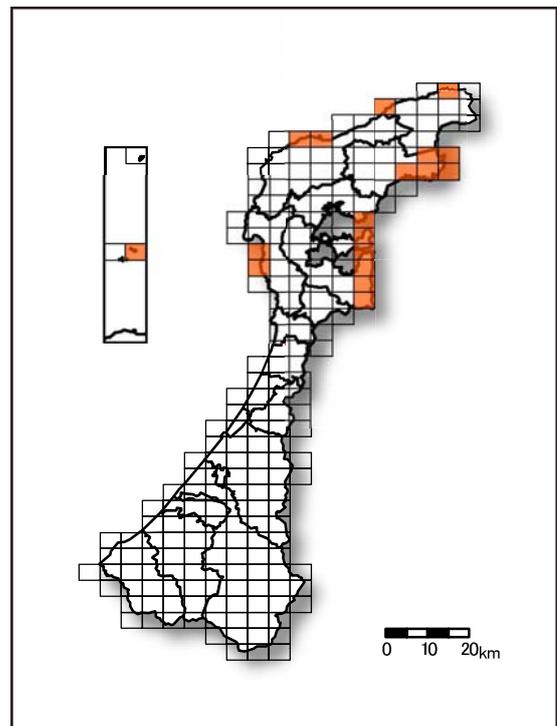
日本固有種。飛鳥での分布地は、山形県の天然記念物に指定されている。

参考文献

矢島孝昭・新谷力・又多政博. 1979. 能登九十九湾周辺海域におけるムツサンゴ *Rhizopsammia minuta mutuensis* の生息状況. 金沢大学日本海域研究報告, (11): 81-91
 矢島孝昭. 1986. ムツサンゴの生態分布. 南紀生物, 28: 37-40
 坂井恵一・筒井功・山岸祐一・又多政博. 1996. 九十九湾周辺におけるムツサンゴ *Rhizopsammia minuta mutuensis* の分布状況. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (2): 61-63



写真提供者：岡本武



県内の分布

ウスバノコギリモク

ヒバマタ目ホンダワラ科

Sargassum serratifolium (C.Agardh) C.Agardh

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

選定理由

本種が認識されたのは1983年と最近のことであり、また漸深帯の深いところに生育するため調査不足であり、現時点では情報不足とせざるを得ない。

形態

主枝の縁辺が平滑、下部の葉は薄く、鋸歯がない。

国内分布

長崎県から新潟県までの日本海沿岸。

県内分布

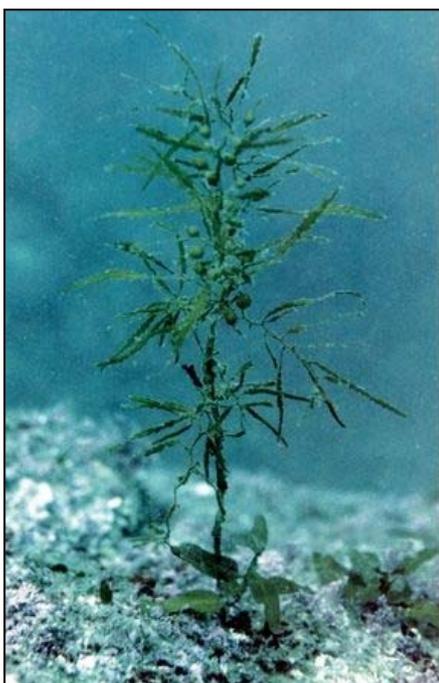
九十九湾と福浦港沖で採集されている。

生育地の条件

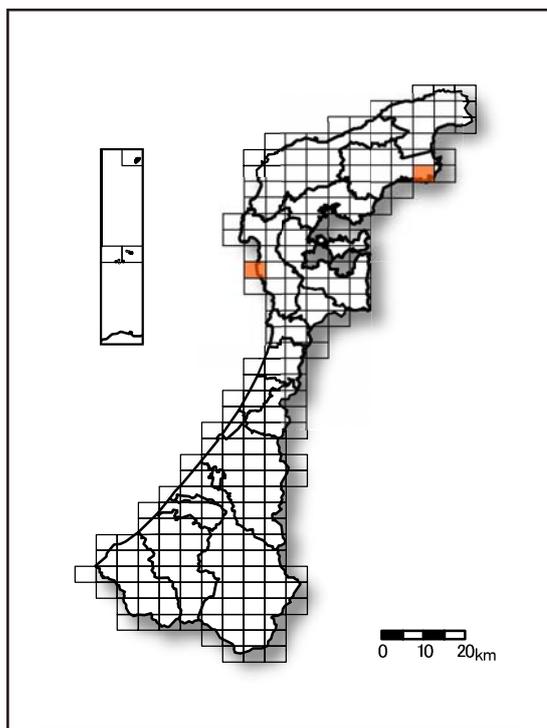
水深20mくらいまでの深い岩礁地あるいは転石地。

生存の危機

県内での生態が不明で言及できない。



写真提供者：新井章吾



県内の分布

タマハイキモク

Sargassum muticum (Yendo) Fensholt

ヒバマタ目ホンダワラ科

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

選定理由

県内での分布は限られた場所だけ、それも低密度の生育状態と考えられが、本種が認識された1978年以降において、専門家による七尾湾や穴水湾などでの広範囲な調査はなされていない。

形態

付着器は平たい盤状で、その中央から短い本の茎をだす。その頂部から数本の主枝をらせん配列に生じる。

国内分布

北海道南部、本州中部から四国、九州。

県内分布

七尾市大田で採集されている。

生育地の条件

波当りの弱い、やや静かな場所に生育し、低潮線付近から水深1mくらいまでの浅いところ。

生存の危機

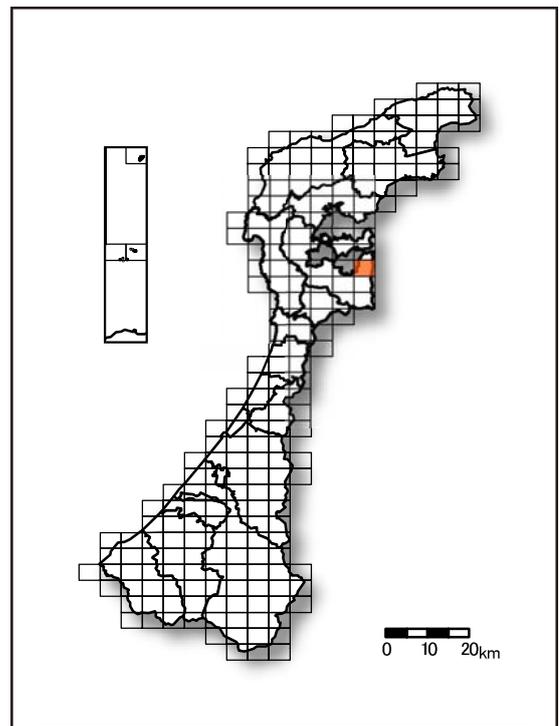
県内での生態が不明で言及できない。

特記事項

直立部はよく似ているが、付着器が小さな盤状で糸状根も出すミヤベモクはよく見られている。



写真提供者：新井章吾



県内の分布

ススカケベニ

Halarachnion latissimum Okamura

スギノリ目ススカケベニ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

選定理由

今の所、日本海岸からの報告はない。したがって、能登島町に生育する本種は貴重である。

形態

体は高さ10～30cmで、円形から長楕円形に広がる。色はくすんだ紅色で、質は粘滑。体の回りが裂け、縁辺から同様な葉体を出すこともある。

国内分布

本州太平洋岸中部、瀬戸内海。

県内分布

能登島町曲。

生育地の条件

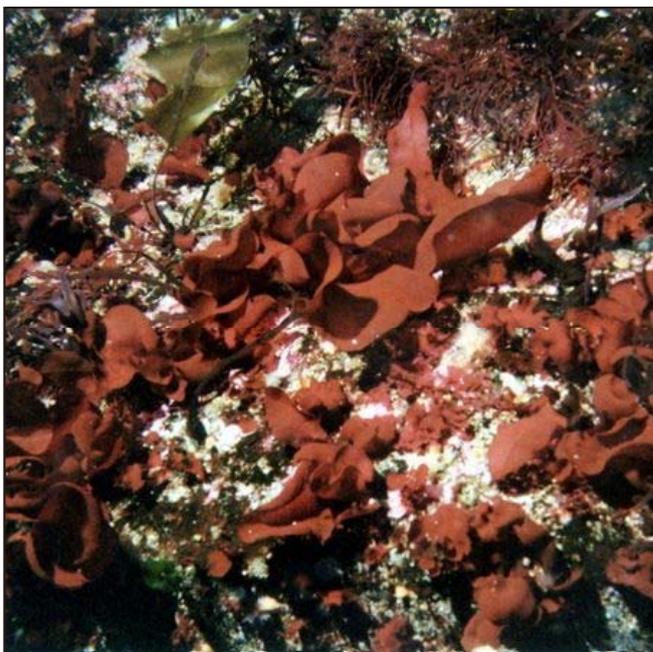
波静かな内湾の漸深帯の石や貝殻、他の海藻の上などに生育する。

生存の危機

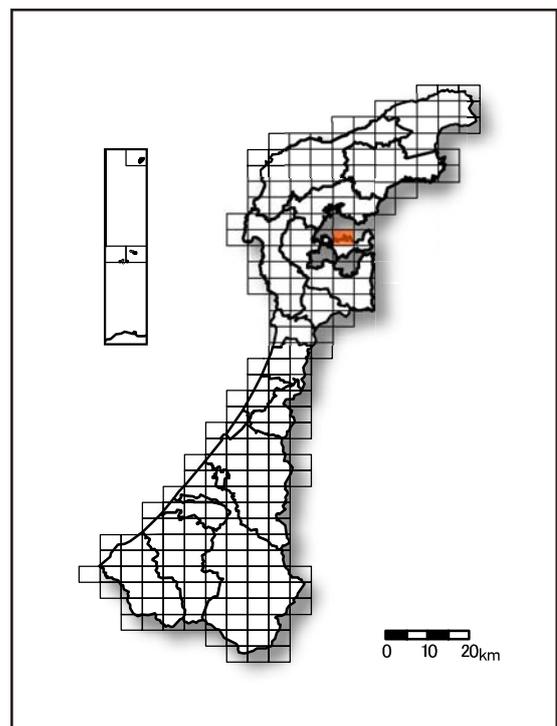
生態が不明で言及できない。

特記事項

のとじま水族館の水槽内に自然発生し、よく繁茂している。



写真提供者：池口新一郎



県内の分布

タマカイメン

Tethya japonica Sollas

硬海綿目タマカイメン科

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

選定理由

本種は1963年に九十九湾越坂で採集され日本海沿岸では初記録として記載された。その後の調査でも九十九湾内及び湾口だけで見ついている。

形態

外形は球状または卵円形、高さ16mm、径14mm、生時は赤黄色。小さな乳様突起があるように見える。

国内分布

九十九湾内及び湾口。

県内分布

九十九湾内及び湾口。

生息地の条件

九十九湾では波当たりの少ない比較的浅い岩盤上または転石上に多く生息している。

生存の危機

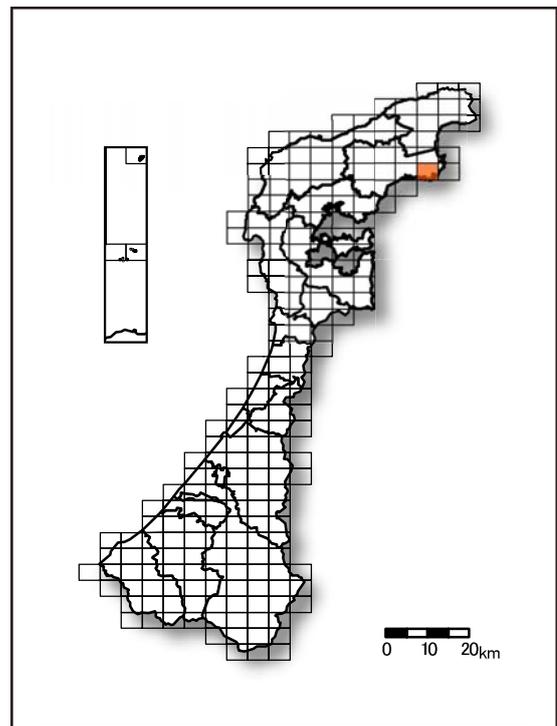
現在の所、県内他地域では確認していないが、浅海に生息し、固着種であるため護岸工事などがあると壊滅のおそれがある。

参考文献

谷田専治. 1964. 能登九十九湾沿岸の海綿(金沢大学能登臨海実験所年報, 第4巻).



写真提供者: 又多政博



県内の分布

ウミサボテン

ウミエラ目ウミサボテン科

Cavemularia obesa Milne-Edwards et Haime

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

選定理由 水深がやや深い砂泥底に生息し、年々少なくなっていると思われる。

形態 群体はこん棒状をしていて柔軟性があり、伸びると50cmにもなる。

国内分布 石狩湾以南に分布。

県内分布 水深10m以深より見られるが、九十九湾では近年あまり見かけなくなった。七尾南湾・西湾・北湾にやや多く見られる。また、珠洲市粟津海岸でも確認している。加賀から外浦海岸でも生息すると思われるが情報不足である。

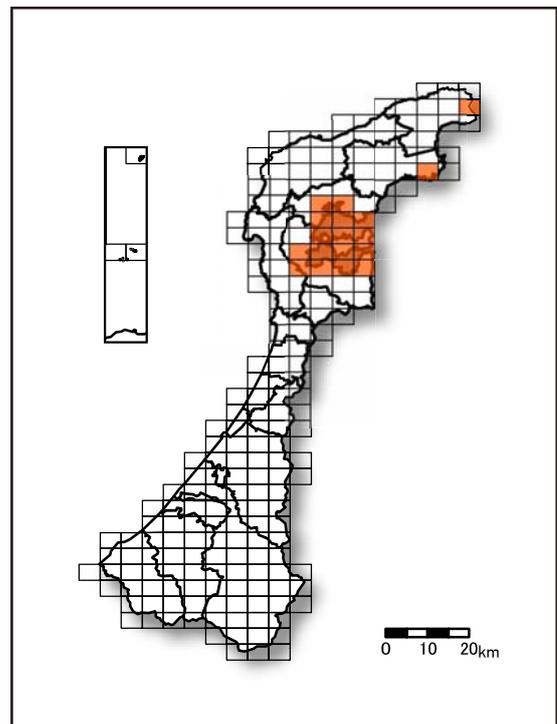
生態 内湾の20m以深まで生息、日昼はちぢんで砂泥に潜っていることが多い。刺激するとかなり強い発光をする。ウミエラ類は八放サンゴの仲間、固着しない個种群である。

生育地の条件 比較的波あたりの少ない内湾の砂泥に生息しているため人為的攪乱には弱い。

生存の危機 ナマコなどの桁網により生息域が減少していると思われる。



写真提供者：岡本武



県内の分布

ホソウミエラ

Scytalium martensii Kölliker

ウミエラ目ヤナギウミエラ科

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

選定理由 七尾湾に分布が限定されている。

形態 むち状の群体で、下半分の柄の部分を砂泥中に埋めてたつ。幹の部分は左右に分れ、よく発達した葉状体が20～40対、えら状に並列している。

国内分布 相模湾以南の日本各地に分布。

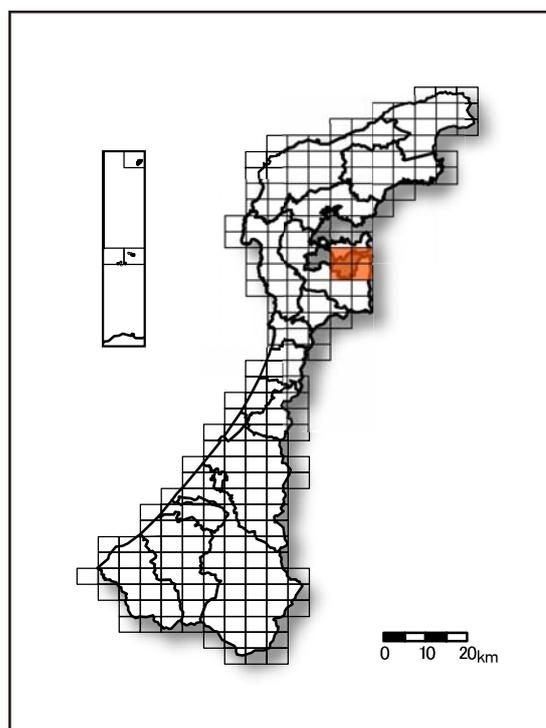
県内分布 内浦海岸で見られるのは稀。七尾南湾・西湾・北湾の水深10m以深ではみることができるが、さかんに行われるナマコなどの桁網により棲息場所が狭まっている。

生態 個体の高さは20～30cm、ときに60cmをこえることもある。内湾の水深20m以上の砂泥底に生息する。

生息地の条件 やや波あたりがよく砂泥質の急激な変化のないところ。

生存の危機 内湾における人為的攪乱の影響は大きい。

写真（図）はありません。



県内の分布

フトウミエラ

Leioptilus fimbriatus (Herklots)

ウミエラ目ウミエラ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

選定理由

七尾湾に分布が限定されている。

形態

幅の広い羽状(幹)で、柄の部分は太く短く砂泥に埋もれ立つ。葉状体は30対で左右に重なり合って並ぶ。

国内分布

相模湾以南に分布。

県内分布

七尾南湾・西湾・北湾で希にみられるが、個体数はホソウミエラよりかなり少ない。外浦海岸での情報が少ない。

生態

個体の高さは20cm前後で内湾の水深20m以上の砂泥底に生息する。

生息地の条件

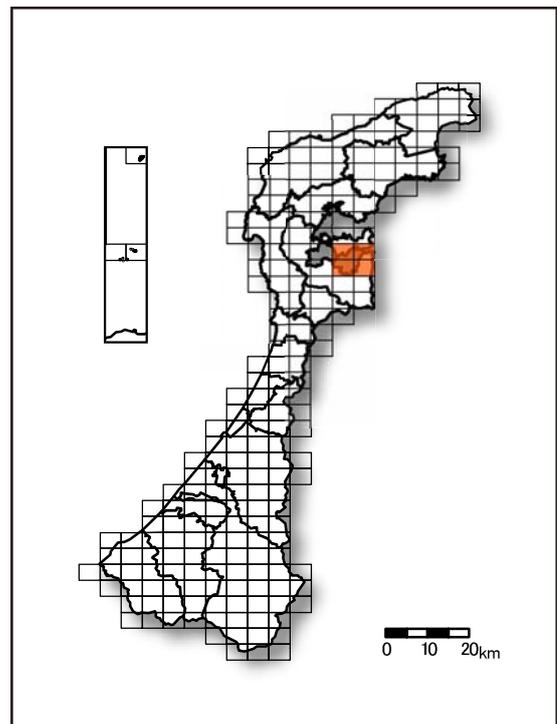
やや波あたりがよく砂泥質の急激な変化のないところ。

生存の危機

ホソウミエラよりもさらに危機に陥っているようである。



写真提供者: 岡本武



県内の分布

チャイロキヌタ

中腹足目タカラガイ科

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

Palmadusta artuffeli (Jousseaume)

選定理由

南方系だが県内各地に広く分布している。

形態

殻高2cm、殻径1.5cm程。背側は褐色で、まれに中央付近に暗帯がある。腹側は白色で斑はなく、外套膜は黒色。

国内分布

房総半島以南、四国、九州、奄美、沖縄。

県内分布

能登半島各地の砂浜海岸で、打ち上げられた貝殻が観察される。

生態

毎年、砂浜に打ち上げられる貝殻は多く、周年生息していると思われるが、生貝の生態は不明である。

生息地の条件

生態が不明なので言及できない。

生存の危機

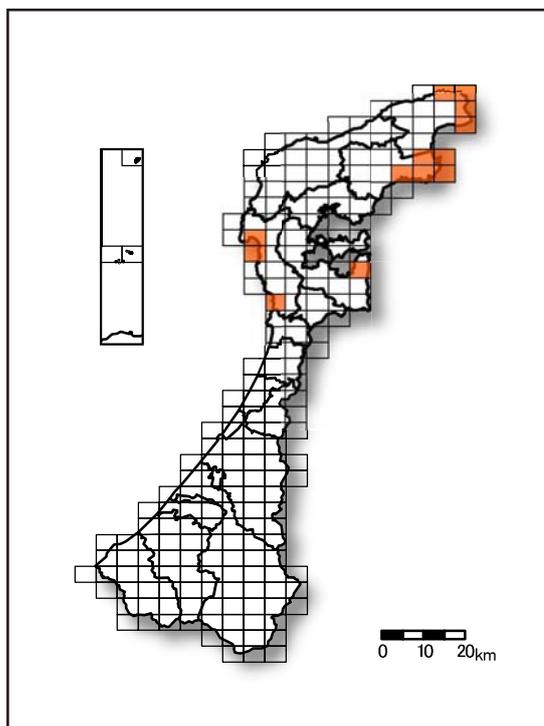
生態が不明なので言及できない。

特記事項

能登町姫海岸の浮き転石裏面で生貝を確認している。



写真提供者：坂井恵一



県内の分布

ハボウキガイ

Pinna bicolor Gmelin

ウグイスガイ目ハボウキガイ科

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

選定理由

内湾あるいは港湾などの波あたりの少ない場所に生息しているが、港湾工事などにより著しくその個体数が減っていると思われる。

形態

殻長約25cm、殻は薄く、膨らみは弱い。殻色は黄土色。

国内分布

房総半島以南。

県内分布

九十九湾内、宇出津港、穴水湾周辺。

生態

砂泥底に体長（殻）の半分ほどを埋没して生息している。

生息地の条件

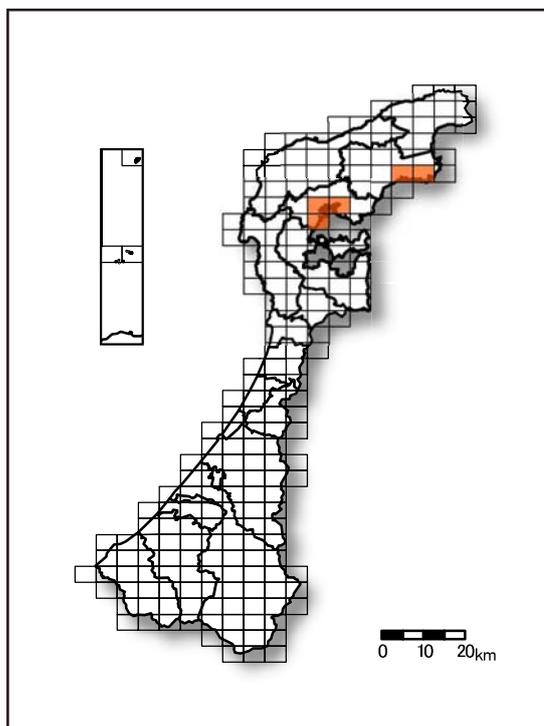
比較的波あたりの少ない内湾あるいは港の中などの潮間帯から水深10m前後の砂泥底に生息している。

生存の危機

港湾に生息しているものは工事などにより絶滅する可能性がある。



写真提供者：又多政博



県内の分布

コシダカウニ

Mespilia globulus (Linnaeus)

ホンウニ目サンショウウニ科

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

選定理由

比較的暖海性のウニで、本県ではその生息数が少ないものと思われる。

形態

殻径3cm内外、殻高が高く球状に近い。棘は明るい赤橙色、間歩帯にオリーブ色の幅広い裸状帯域がある。

国内分布

房総半島・相模湾以南に分布。

県内分布

能登半島の内浦海岸では毎年生息を確認しているが、近年わずかながら増加の傾向にあるように思われる。

生態

比較的波あたりの弱い浅所または波静かな内湾に生息している。

生息地の条件

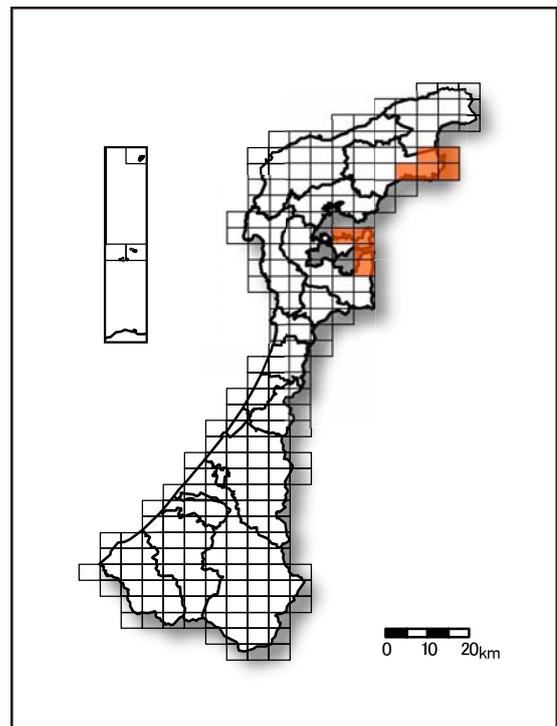
陸からの土砂などの影響のない浅所。

生存の危機

暖海性であり、本県での生息数はきわめて少ないと思われる。また、浅所に生息するため陸上からの土砂などの影響も受けやすい。



写真提供者：又多政博



県内の分布

オトヒメゴカイ

Hesione reticulata Marenzeller

サシバゴカイ目オトヒメゴカイ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

選定理由 元来普通に見られた種であったが、近年急速にその数が激減している。

形態 体長4～8cm、背面は赤褐色と無色のまだらで縦長のすじがある。

国内分布 本州中部～沖縄に分布。

県内分布 九十九湾内、能登町姫海岸など。

生態 潮間帯のタイドプールなどにある転石下に生息している。

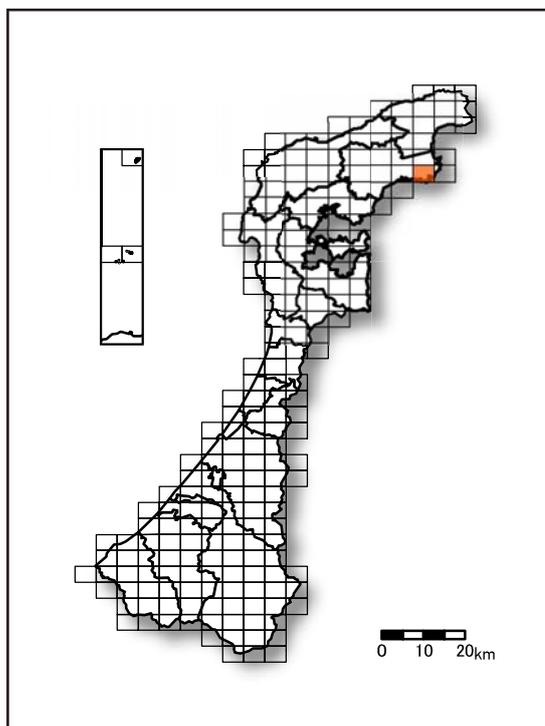
生息地の条件 多少転石の下に砂がある方がよいようである。

生存の危機 現在確認している生息場所では、春の大潮時には干上がる様な場所に生息していることもあり、雨水の影響を受けやすいように思われる。

特記事項 日本固有種である。



写真提供者：又多政博



県内の分布

カタユレイボヤ

Ciona intestinalis (Linnaeus)

マメボヤ目ユレイボヤ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

選定理由

年によっては比較的多く確認する事があるが、近似種ユレイボヤとともに個体数は少ないと思われる。

形態

体長10cm、細長い円筒形で、色彩は透明あるいは白色、先端は橙色。

国内分布

本州の各内湾、瀬戸内海に分布。

県内分布

九十九湾周辺に分布する。

生態

岩礁地帯の転石、ブイ、ロープ等に付着。近年確認することが少なくなった。

生息地の条件

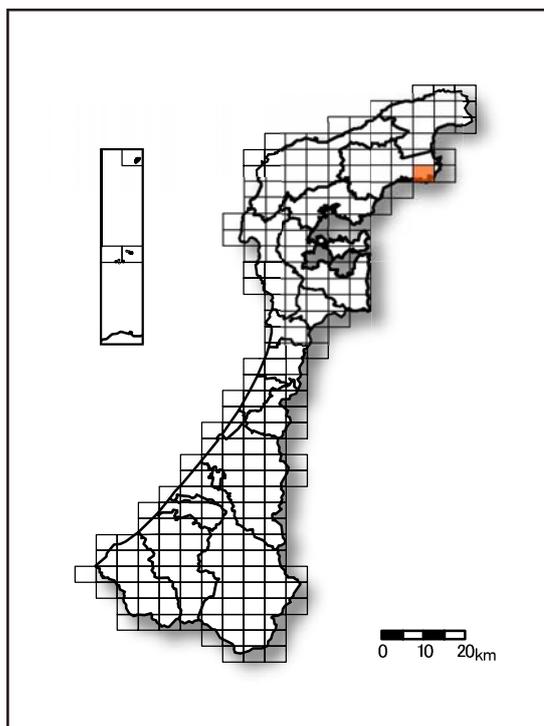
内湾のロープ、ブイなどに付着することが多い。

生存の危機

年によってその生息数に増減があり、広範囲の調査が必要。



写真提供者：井本善次



県内の分布

ナメクジウオ

Branchiostoma belcheri Gray

ナメクジウオ目ナメクジウオ科

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

選定理由 日本海沿岸における分布の北限地。

形態 半透明で全長約5cmに達する。口は体前端に開き、その周縁に外触手(外髭)がある。

国内分布 分布の北限は三陸山田湾だが、房総半島以南に産地が多く、瀬戸内海、有明海にも分布する。日本海では丹後半島沖で採集記録がある。

県内分布 1997年7月19日、七尾市花園沖の水深約10mで変態直後の2個体(全長約1cm)が採集された。一方、1998年の8月と10月に同海域で本種の採集を試みたが、1個体も採集されなかった。

生態 本県沿岸では、本種の成熟個体が採集されたことはない。このため、1997年に採集された2個体は、前年の夏に別の海域で生まれた浮遊幼生が当海域まで流されてきて着底して変態した可能性がある。

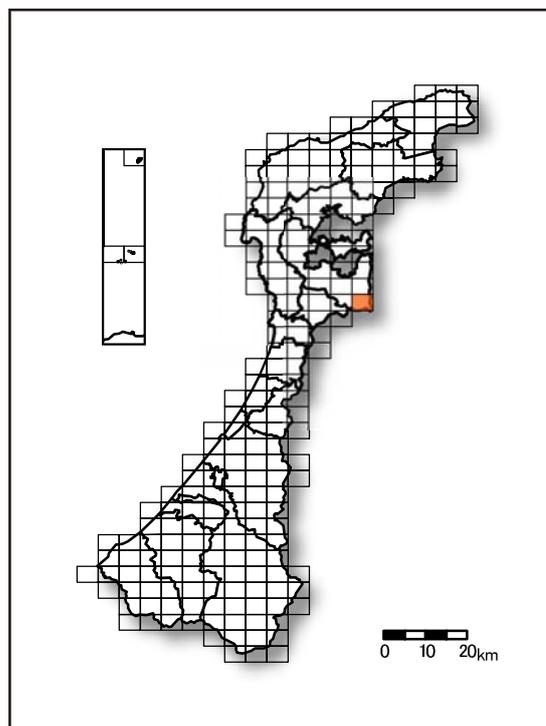
生息地の条件 七尾市の採集地付近での海底砂は中砂 (<0.590) ~ 細砂 (<0.150) が主体であった。

生存の危機 生態が不明なので言及はできない。

特記事項 愛知県蒲郡市大島と広島県三原市有龍島が生息地として国の天然記念物に指定されている。



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布

アカハゼ

スズキ目ハゼ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

Amblychaeturichthys hexanema (Bleeker)

選定理由

全国的には普通種だが、本県での分布は極めて限定されている。

形態

マハゼに似るが、体色は全身が赤っぽく、下顎に3対のヒゲがあり、尾鰭先端は細くとがる。

国内分布

北海道以南から宮崎県と山口県まで分布する。

県内分布

七尾北湾、七尾西湾、および七尾南湾に限られている。

生態

本県における生活史の詳細は不明。

生息地の条件

内湾のやや深所の砂泥底(アマモ場)に生息すると推測されるが、詳細は不明。

生存の危機

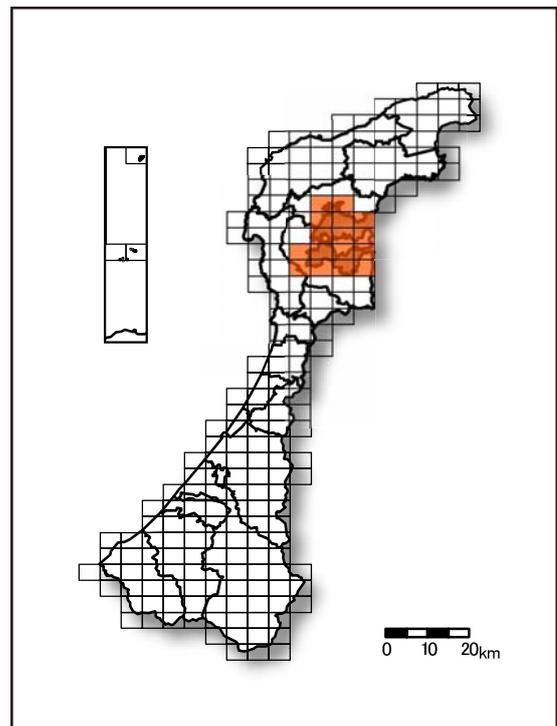
七尾湾周辺では、マナマコやアカガイなどの桁網漁が盛んに行われており、この際に混獲される。また、アマモ場の消失や水質汚染などの生息環境の悪化にともなう個体群の減少が危惧される。

特記事項

浮遊期、底生生活期ともに碎波帯や極く浅い場所には出現しないようである。



写真提供者：坂井恵一



県内の分布

フジノハズタ

Caulerpa fergusonii Murray

ミル目イワズタ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

選定理由

能登内浦沿岸で機会あるごとに本種の発見に努めてきた。しかし、いまだに矢波以外では見出されていない。本県では稀な海藻と考えられる。また、本種の北限の生育地であり、学術的にも貴重な海藻である。現時点では地域個体群としておくのが妥当と考える。

形態

体は匍匐枝と直立部からなる。直立部は6~7mmごとにくびれ、対生して小枝を生じる。小枝は長さ1cm、幅5~6mmで頂端は丸い。

国内分布

本州太平洋岸中・南部、四国、九州、日本海南部。

県内分布

能登町の矢波沖の水深16m付近。

生態

漸深帯の深所に生育する。

生息地の条件

矢波は砂泥質の海底であるが、カシパン類や貝類の遺骸（貝殻片）が多量に埋もれており、フジノハズタはカシパン類の貝殻上に匍匐枝を伸ばし、仮根を張って生活している。したがって、本種の生育には貝殻片などの石灰質の着生基盤が必要と思われる。

生存の危機

生態がよく分っていないので言及できない。

特記事項

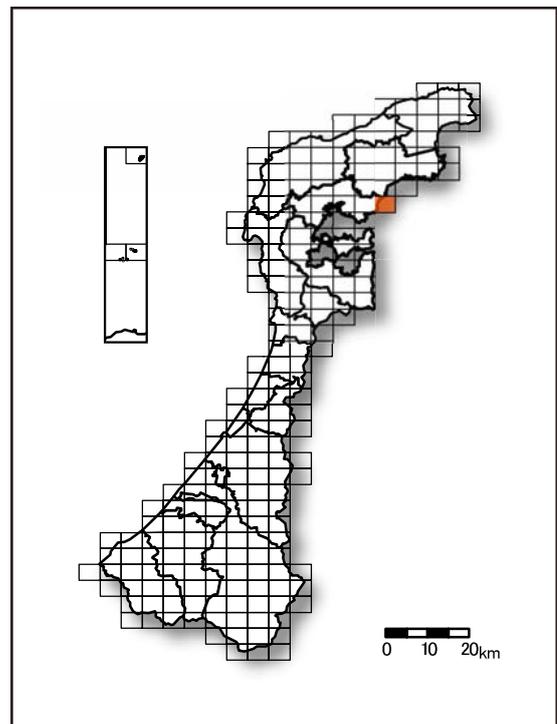
今の所、能登町が本種の北限の生育地。近くの珠洲市の飯田湾は、生物遺骸と思える石灰質を多く含む海底が広がることが知られており、本種の生育が期待できる。今後の調査課題である。

参考文献

佐野 修. 1988. ホソエガサが住む海. 石川の四季と自然, 79p. 石川自然誌研究会, 金沢



写真提供者：佐野修



県内の分布

ウスイロモク

Sargassum pallidum (Turner) C.Agardh

ヒバマタ目ホンダワラ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

選定理由

七尾市沿岸でしか確認されず、分布生育範囲が限られている可能性がある。他の地域に生育していることも十分考えられるが現時点では地域個体群としておくのが妥当と考える。

形態

主枝の下部につく葉は長さ10cm、幅2cmと大きい。また、薄い膜質で、色はやや淡色のため、ウスイロの名がある。

国内分布

本州日本海沿岸、新潟県から秋田県。

県内分布

七尾市沿岸、百海町から大泊町の間および観音崎から三室湾の間。

生態

数m以上の深さで、ときどき砂をかぶるような所に生育している。この点は他のホンダワラ類とは異なる大きな特徴である。

生育地の条件

ときどき砂をかぶる岩や泥岩地。

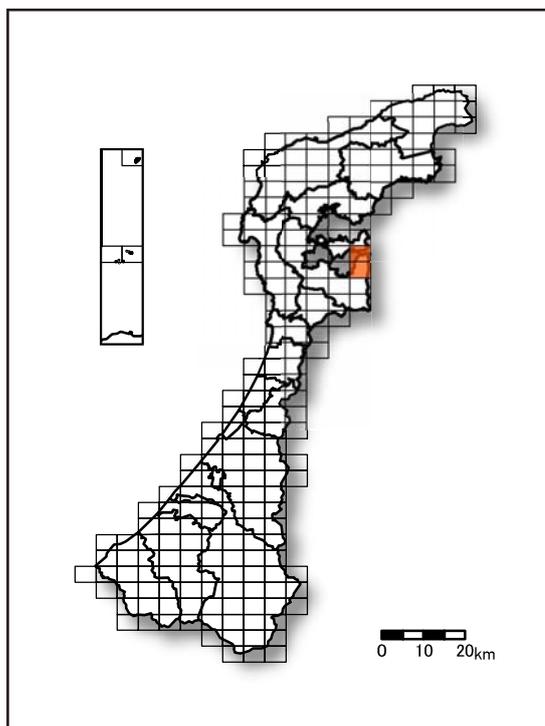
生存の危機

さしあたって脅威はないが、河川改修による砂の供給減、あるいは富栄養化などによる泥の堆積などが生育阻害となろう。

特記事項

七尾市大泊町の隣の富山県氷見市沿岸にも生育する。

写真（図）はありません。



県内の分布

ツクシアマノリ

Porphyra yamadae Yoshida

ウシケノリ目ウシケノリ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

選定理由

今の所、能登外浦の志賀町から輪島市沿岸にかけては見出すことができず、珠洲市沿岸でのみ、しかも狭い範囲での確認しかない。本種の分布の北限でもある。現時点では地域個体群とするのが妥当と考える。

形態

体は初期では円形だが、成長すると縮れてポタンの花のような団塊状になる。体は厚く、硬いためか、珠洲市の狼煙では「はちのす」と呼び、食用とはしない。

国内分布

兵庫県（山陰）、本州太平洋岸中部、九州、南西諸島。

県内分布

珠洲市の狼煙、木の浦、仁江の3箇所にて採集されている。

生態

外海に面する高潮線付近の岩上に生育する。散らばることは少なく、本種だけの小さなパッチ状の群落を作る。

生育地の条件

分布から見て水温の高い海域で、波の荒い外海に面する岩礁と考えられる。

生存の危機

分らないことが多く、言及できない。

特記事項

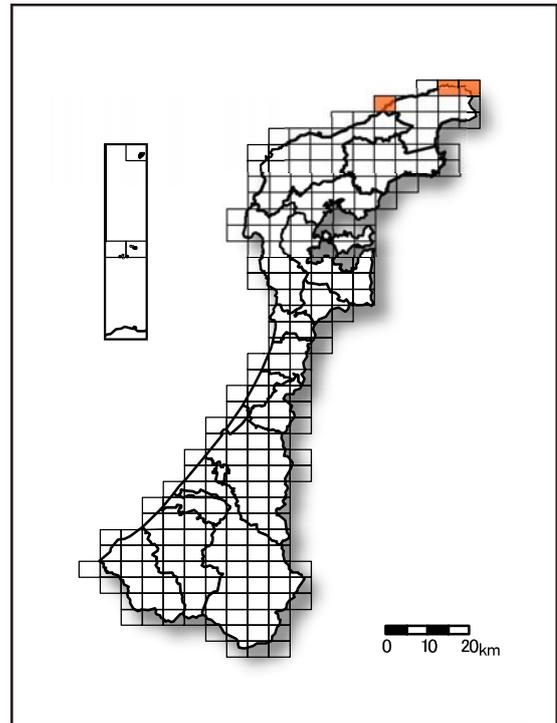
能登のいわのり群落はウップルイノリが主体で、これにオニアマノリとクロノリが混生するが、上記の3箇所では小範囲ながら本種のかたまりも形成される。本種は、山陰地方からの報告は兵庫県のみであるが、九州から能登まで連続分布している可能性もある。

参考文献

佐野 修. 1984. 冬の味覚—岩ノリ—. 能登の自然, 110-111. 石川自然誌研究会, 金沢



写真提供者：佐野修



県内の分布

ツクモジュズサンゴ

イシサンゴ目シオガマサンゴ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

Culicia japonica tenuisepes Ogawa, Takahashi and Sakai

選定理由

能登町の九十九湾で発見された非造礁性の群体イシサンゴ。

形態

ポリプはオレンジ色か透明、莢(骨格)は白色で直径約5mm。直接岩などに固着し、各個虫は共骨で連なり群体を造る。沈設されたテトラポッドや自然石等にも群体を形成することがある。

国内分布

能登半島と山形県の飛島、佐渡島に分布する。

県内分布

主に能登半島の内浦海岸に分布しているが、外浦海岸でも小規模な群体の生息地が見つまっている。

生態

生息場所は平均水面から水深約2mまで。岩礁の水直面やオーバーハングした天井部の内側等で大規模な群体が形成されることがある。

生息地の条件

生息場所の環境条件ならびに生息水深はムツサンゴと類似するが、本種が主に岩の垂直面や窪みの内側を好むのに対し、ムツサンゴは比較的平坦な岩肌を好む傾向がある。

生存の危機

生息水深が浅いので、自然海岸の減少に伴う生息適地の破壊が危惧される。

特記事項

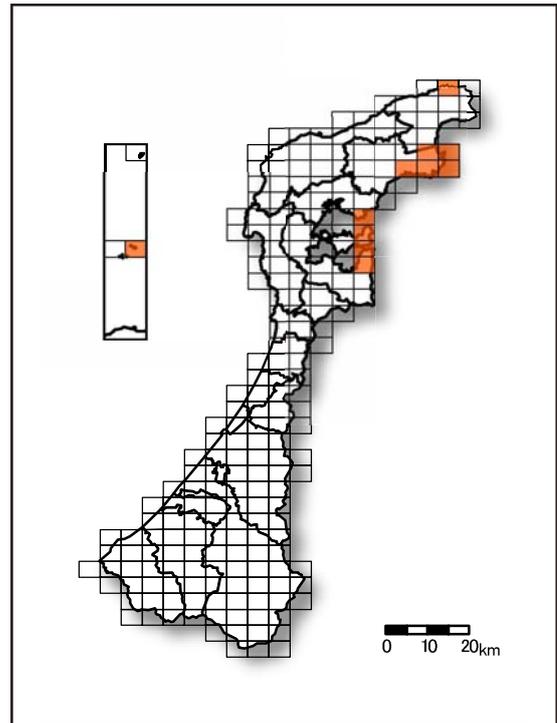
産卵期は夏。本種は有性生殖で別の新しい場所に個虫を着底させて群体数の増殖を図り、無性生殖(芽生)で群体内の個虫数を増加させる。

参考文献

- Ogawa, K., K. Takahashi and K. Sakai. 1997. Notes on Japanese Ahermatypic Corals, New Species and Subspecies of *Culicia* and *Phyllangia*. Publications of the Seto marine Biological laboratory, 38(1/2): 45-52.
- 坂井恵一・筒井功・山岸祐一・又多政博・小川数也・矢島孝昭. 1996. 九十九湾で確認されたジュズサンゴ属の一種 *Culicia* sp. について. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (2): 1-5.
- 坂井恵一・小川数也・筒井功・福島広行. 1997. ツクモジュズサンゴ(新称和名) *Culicia* sp. (Scleractinia, Rhizangiidae) に見いだされた受精卵とプラヌラ. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3): 1-8.
- 坂井恵一・筒井功・福島広行. 1997. 能登半島におけるツクモジュズサンゴ *Culicia* sp. (Scleractinia, Rhizangiidae) の分布と生息状況. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3): 9-16.
- 小川数也・坂井恵一. 1997. ツクモジュズサンゴ *Culicia* sp (Scleractinia, Rhizangiidae) に見いだれた共生藻とラン藻について(予報). のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3): 17-21.



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布

シオガマサンゴ

イシサンゴ目シオガマサンゴ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

Oulangia stokesiana miltoni Yabe et Eguchi

選定理由

日本海沿岸では山形県飛鳥と能登半島の2箇所が生息地として知られている。

形態

触手は透明、ポリプの大きさは最大で直径約2cm。莖(骨格)は直径約1cm、莖内の隔壁は黒色だが上縁だけは白色、莖壁は白色。非造礁性の単体イシサンゴで、個虫は直接岩などに固着する。

国内分布

冷水性の種類で、太平洋沿岸では三陸海岸に多いが、相模湾、伊勢湾、土佐湾(南限)などに分布する。

県内分布

主に能登半島の内浦海岸主体に分布しているが、外浦海岸でも志賀町七見で見つかっている。

生態

岩礁性潮間帯の低潮位から水深15～16mまでに多いようであるが、詳細は不明。

生息地の条件

九十九湾では、多少浮泥が堆積している海底にも生息している。

生存の危機

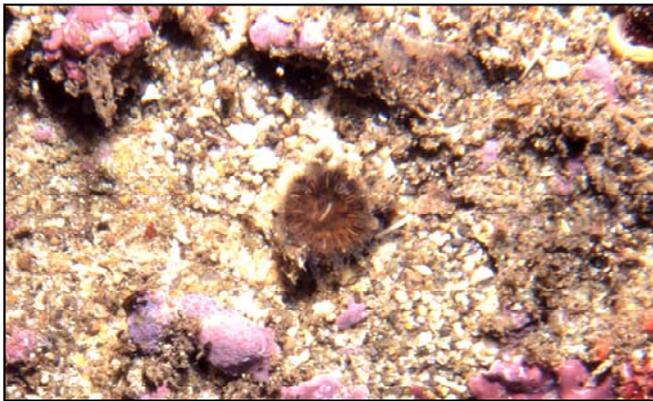
生息水深が浅いので、自然海岸の減少に伴う生息適地の破壊が危惧される。

特記事項

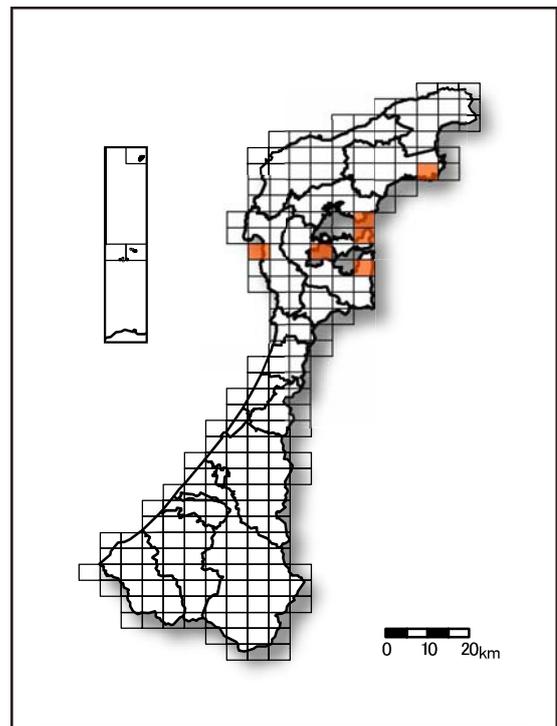
日本固有種で模式産地は宮城県の塩釜湾。九十九湾周辺等ではチョウジガイ科のアオチョウジガイモドキとヒラチョウジガイモドキの2種が生息分布する。

参考文献

坂井恵一・福島広行. 1997. 能登半島の3海域でみられた魚類と海産無脊椎動物. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3): 33-42.



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布

アンズイソギンチャク

イソギンチャク目ウメボシイソギンチャク科

石川県カテゴリー

地域個体群

Aulactinia coccinea (Verrill) sensu Uchida and Soyama

国カテゴリー

なし

選定理由

県内での分布が限定されているため。

形態

体壁は暗緑色とベージュの縞模様、触手と口盤は一律に赤色で、体壁にはややまばらに吸着イボがある。このイボはかなり大きく、良く目立つが吸着力は弱い。

国内分布

長崎および瀬戸内海に分布する。

県内分布

九十九湾で多く見られる。また、七尾の百海でも少ないが生息している。外浦海岸での情報は無い。

生態

長崎および瀬戸内海では水深数mの岩礁にみられるとされている。本県でも内浦沿岸の水深2～3m以深の岩礁に着生しているのが見られるが個体数は少ない。飼育すると、夜間に触手を広げることが多い。また、胃腔や触手内でプラナリア幼生が見つかることがある。

生息地の条件

波あたりのやや強い岩礁地帯の遮蔽部。

生存の危機

人為的な構築物などにより生息地が脅かされているようである。

特記事項

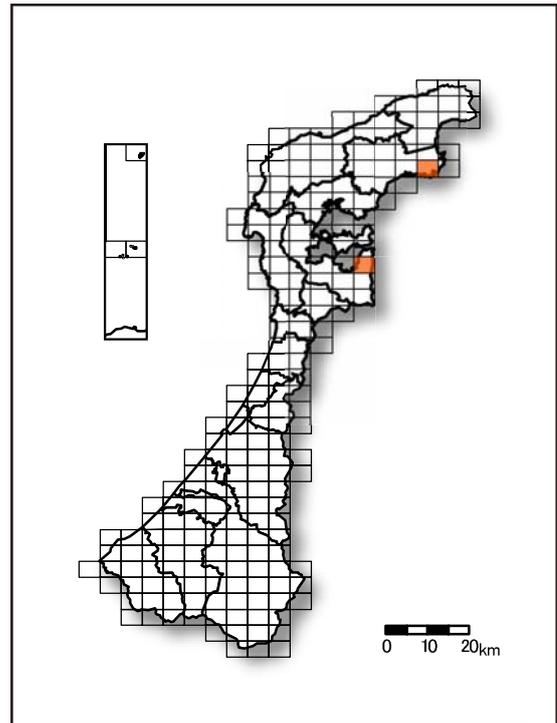
本種の学名はあくまでも内田・楚山(2001)のイソギンチャクガイドブック(TBSブリタニカ)に記載されたアンズイソギンチャクに適用されたものであり、その分類学的位置づけは不明瞭である(千葉県立中央博物館海の博物館、柳研介研究員からの私信)。

参考文献

内田絃臣・楚山勇. 2001. イソギンチャクガイドブック. TBSブリタニカ



写真提供者: 岡本武



県内の分布

グビジンイソギンチャク

イソギンチャク目ハタゴイソギンチャク科

石川県カテゴリー

地域個体群

Stichodactyla tapetum (Ehrenberg)

国カテゴリー

なし

選定理由

生息地での個体数の減少が顕著であるため。

形態

盤はいぼ状の短い触手で覆われる。盤の直径10cmくらいの個体が多い。

国内分布

千葉県以南に分布する。

県内分布

数年前は能登町の九十九湾や羽根沖の瀬、それに七尾市百海の海岸等でみられたが、ここ2～3年くらいは、なかなかみかけられなくなってきた。

生態

低潮線より水深10m以深の岩礁に着生している。

生息地の条件

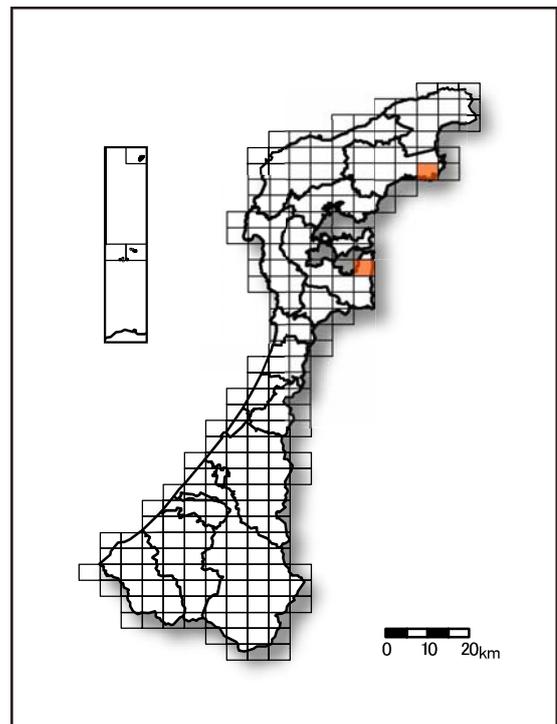
生態が不明なので言及できない。

生存の危機

人為的な構築物などにより生息地が脅かされているようである。



写真提供者：岡本武



県内の分布

アマガイ

原始腹足目アマオブネガイ科

石川県カテゴリ 地域個体群

Nerita (Heminerita) japonica Dunker

国カテゴリ なし

選定理由

全国的には普通種であるが、県内の分布地は一か所で、それも極めて狭い範囲に限定されているため。

形態

殻高、殻径ともに2cm程で、殻表はざらざらして黒く、三角形の不規則な模様がある。内唇の滑層は黄色、蓋は半月形で顆粒と柄がある。

国内分布

房総半島以南、四国、九州。

県内分布

志賀町。

生態

汀線上部の岩の割れ目の中などに巻貝のタマキビガイやイシダミと混生している。

生息地の条件

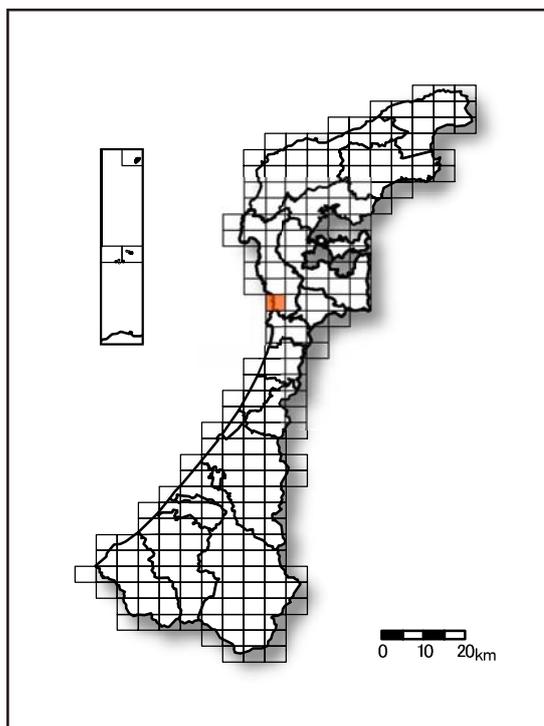
陸からの環境破壊や海洋汚染を行わないこと。

生存の危機

生息地が極めて狭く限定されているので、採集を始め小さな人為的攪乱でも絶滅の危機が心配される。



写真提供者：坂井恵一



県内の分布

メダカラ

中腹足目タカラガイ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

Purpuradusta (Cupinota) gracillis (Gaskoin)

選定理由 南方系だが県内各地に広く分布している。

形態 殻高2cm、殻径1.2cm程。前方にやや細まり、側方は平行的でない。灰褐色の背には褐色のやや帯状になる不規則な斑が、両腹面には褐色のごまら斑点がある。外套膜は朱色に近い。

国内分布 陸奥湾以南、四国、九州、奄美、沖縄。

県内分布 能登半島各地の砂浜海岸で、打ち上げられた貝殻が観察できる。

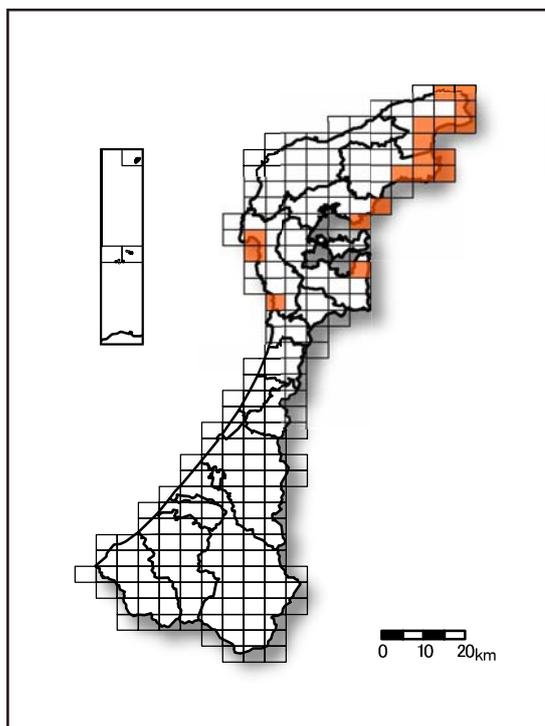
生態 毎年、砂浜に打ち上げられる貝殻は多く、周年生息していると思われるが、生貝の生態は不明である。

生息地の条件 生態が不明なので言及できない。

生存の危機 生態が不明なので言及できない。



写真提供者：坂井恵一



県内の分布

マクラガイ

Oliva mustelina Lamarck

新腹足目マクラガイ科

石川県カテゴリ 地域個体群

国カテゴリ なし

選定理由 南方系の種で、佐渡島と並び能登半島は分布の北限に近いが、県内各地に広く分布している。

形態 殻高4cm、殻径1.2cm程。殻は円筒形で黄褐色の地に細かいジグザグ模様が密にある。殻口内は紫色で、内唇上端に滑層瘤がある。マクラガイ属には全て蓋がない。

国内分布 房総半島、佐渡島以南、四国、九州。

県内分布 能登半島各地および加賀の砂浜海岸で、打ち上げられた貝殻が観察できる。

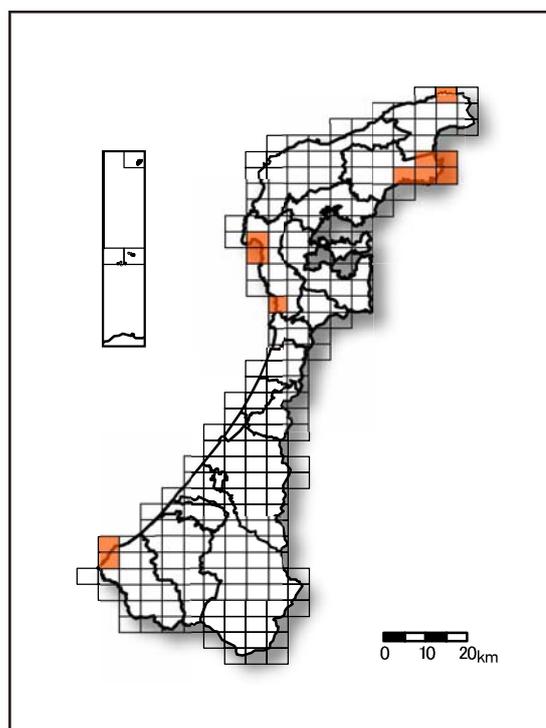
生態 毎年、砂浜に打ち上げられる貝殻は多く、周年生息していると思われるが、生貝の生態は不明である。

生息地の条件 生態が不明なので言及できない。

生存の危機 生態が不明なので言及できない。



写真提供者：岡本武



県内の分布

マシコヒゲムシ

Oligobrachia mashikoi Imajima

環形動物門

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

選定理由

ヒゲムシの仲間の多くは深海に生息し、浅海域のものもそのほとんどが寒流域に生息している。本種は対馬海流の影響下にある九十九湾の水深25m前後に生息していて、この種の仲間の中では大変珍しい。

形態

平成15年に金沢大学自然計測応用研究センター臨海実験施設の調査により完全個体が採集された。体長は13cmであった。棲管の中に生息し、色は血液のような赤色、体幅0.6mm前後、触手(10~18本)がある。

国内分布

能登九十九湾内に分布。

県内分布

能登九十九湾内に見られる。

生態

還元的な砂泥地に埋没し、棲管の一部と触手を底面より出して生息している。

生息地の条件

九十九湾内でも比較的細かい砂泥地の水深25m前後に生息しているが、平成16年には水深9m前後でも生息を確認した。

生存の危機

九十九湾内のみで確認しているが、比較的狭い範囲に棲息しているため、ナマコ桁網などにより、絶滅の恐れあり。

特記事項

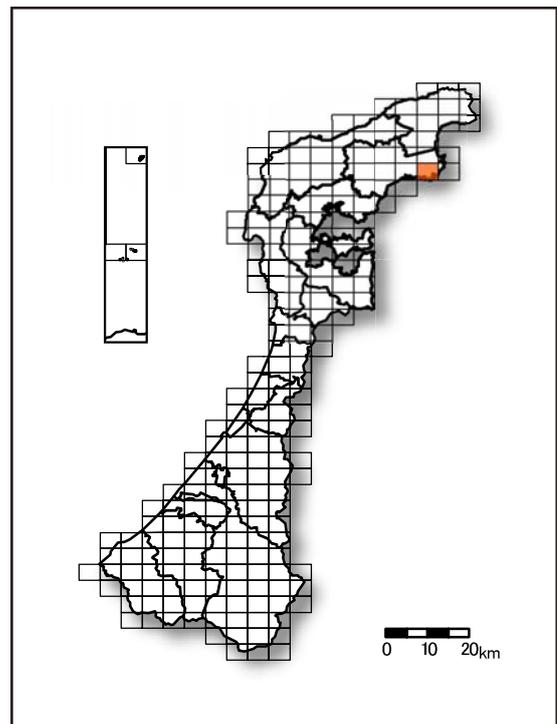
能登町九十九湾が基産地。

参考文献

今島実. 1973. 能登半島の九十九湾から得られた有鬚動物(Pogonophora), *Oligobrachia*属の一新種について. 金沢大学理学部附属能登臨海実験所年報, 第13巻, 7-12
 Sasayama Y., M. Matada, Y. Fukumori, M. Umebayashi, A. Matuno, T. Nakagawa and M. Imajima. 2003. External Morphology of the Posterior End, the "Opisthoma" of the Beard Worm *Oligobrachia mashikoi* (Pogonophora). *Zoological Science* 20: 1411-1416.



写真提供者: 又多政博



県内の分布

サクラオフエリア

Euzonus arcticus Grube

オフエリアゴカイ目オフエリアゴカイ科

石川県カテゴリー

地域個体群

国カテゴリー

なし

選定理由

我が国で最初に発見されたのが金沢市の金石海岸、2007年に金沢市在住の川原英氏らにより新称和名が提唱された。

形態

体形はみみずりに似ている。頭部は先が尖り、後方は丸く膨らみ、胸部(中部)は円筒形で深い溝がある。腹部(後部)には枝分かれした樹枝状のエラが対に並ぶ。体長は5~6cm、頭幅が4~5mmに成長し、生時の体色は鮮やかな赤色、または小豆色で背面は虹色または薄紫色。

国内分布

石川県、北海道余市他。

県内分布

白山市倉部からかほく市内灘にかけての砂浜海岸。

生態

砂の直径が約0.3~0.5mmのやや粗めの汀線付近で、約20cmの深さに潜って生活している。産卵期は夏。

生息地の条件

細かい土砂の堆積や人為的攪乱による砂の粒度組成に変化がないこと。

生存の危機

日本で最初に発見された金石海岸は、堤防や離岸堤の設置による砂浜の粒度組成が変化し、生息環境が不適となって絶滅した。

特記事項

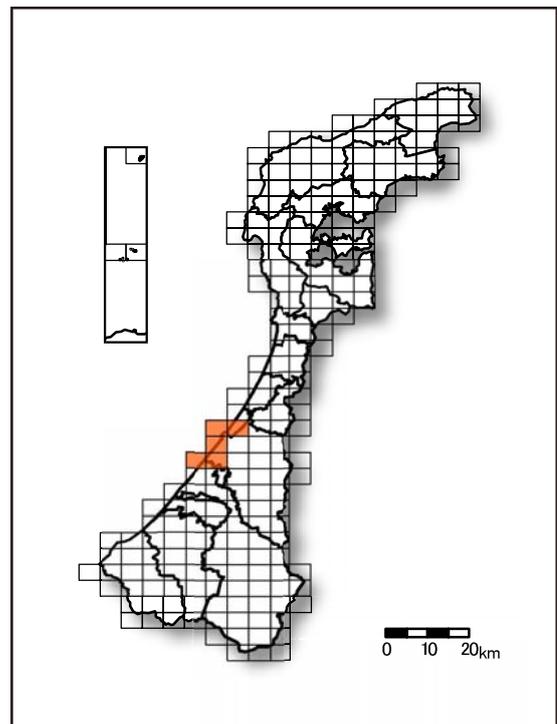
金沢市金石の地元民はオフエリアゴカイの仲間をサクラミミズと呼び親しみ、釣りの餌として利用していた。本種の模式産地はロシアの北極海である。

参考文献

- 安田作二郎. 1936. 金石海岸産多毛類 *Thoracophelia yasudai*. 石川懸天然記念物調査報告, 第9輯, 63-70.
- Imajima, M. and O. H. Hartman. 1964. Polychaetous annelids of Japan, Part II. Allan Hancock Foundation Publications Occasional Paper, (26): 239-452.
- Okuda, S., 1934. Description of a new Polychaete *Thoracophelia yasudai* n. sp. Journal of the Faculty of Science, the Hokkaido imperial University, series 6, 3: 169-175.
- 川原 英・美坂 正・坂井恵一. 2007. 石川県の砂浜海岸に生息する2種のオフエリアゴカイ. 能登の海中林, (27): 5-6.
- 坂井恵一. 2008. 石川県に分布する2種のオフエリアゴカイ. うみうし通信, (58): 2-3.



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布

エゾオフェリア

Euzonus ezoensis (Okuda)

オフェリアゴカイ目オフェリアゴカイ科

石川県カテゴリー

地域個体群

国カテゴリー

なし

選定理由

2007年に金沢市在住の川原英氏らにより新称和名が提唱された。

形態

体形はみみずりに似ている。頭部は先がやや尖り、後方は円筒形、胸部(中部)は円筒形でやや短い。腹部(後部)には櫛状のエラが対に並ぶ。体長は約3~4cm、頭幅は1.5-2mm程度で、サクラオフェリアより小型である。生時の体色は鮮やかな赤色または小豆色。

国内分布

石川県、北海道のオホーツク海に面した枝幸(えさし)。

県内分布

かほく市高松から志賀町高浜にかけての砂浜海岸。

生態

砂の直径が約0.2mmの細かい砂浜の海岸で、汀線付近から少し陸寄りの波がやつかぶるような場所の深さ約30cmまで潜って生活している。産卵期は夏。

生息地の条件

細かい砂の流出など、人為的攪乱等による砂の粒度組成に変化がないこと。

生存の危機

砂浜の侵食・後退が進めば生活場所自体が少なくなり、生存を脅かすことになる。

特記事項

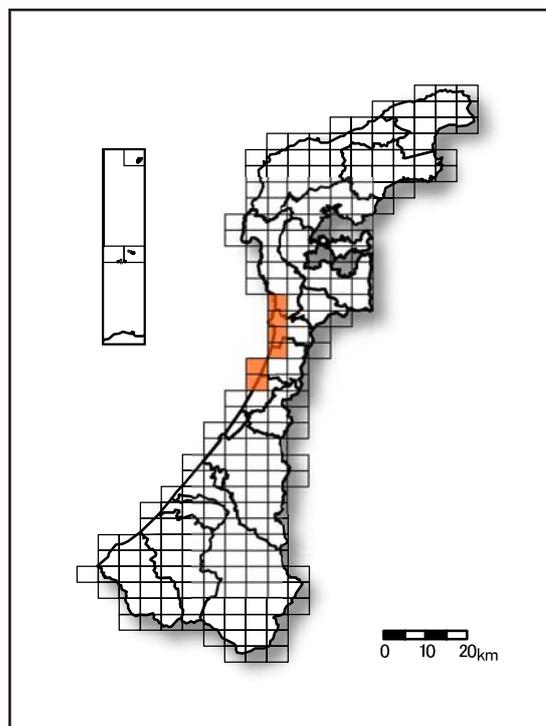
主な生息地である千里浜海岸は海岸侵食が進行している。

参考文献

Imajima, M. and O. H. Hartman. 1964. Polychaetous annelids of Japan, Part II. Allan Hancock Foundation Publications Occasional Paper, (26): 239-452.
 川原 英・美坂 正・坂井恵一. 2007. 石川県の砂浜海岸に生息する2種のオフェリアゴカイ. 能登の海中林, (27): 5-6.
 坂井恵一. 2008. 石川県に分布する2種のオフェリアゴカイ. うみうし通信, (58): 2-3.



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布

ミサキギボシムシ

ギボシムシ綱ギボシムシ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

Balanoglossus misakiensis Kuwano

選定理由

能登半島が日本海沿岸における最初の生息発見地。

形態

体はミミズ型で全長は多くがおよそ30~40cm。頭部は先が尖り、後方は丸く、橋の欄干等に飾られる擬宝珠(ぎぼし)に似ている。襟と生殖翼の接合部は左右の自由端が離れ、肛門は体軸のやや背方に開く。体色は黄色っぽく、強烈なヨウドホルム臭を放つ。

国内分布

日本固有種で、従来は太平洋沿岸の千葉県以南と瀬戸内海にだけ分布するとされていた。

県内分布

志賀町増穂ヶ浦海岸の水深2m~7m付近に生息する。能登町の海岸一体からも生息情報が得られているので、調査が進めば生息地は増えると考えられる。

生態

砂中に潜入しているが、肛門付近には糞塊を築かない。産卵期は夏。

生息地の条件

増穂ヶ浦の生息地における海底砂の粒度は、細砂(<0.25)~極細砂(>0.06)が主体であった。同海域はカバザクラガイが高密度に生息する場所でもある。

生存の危機

浅い砂泥底が主な生活場所のため、埋立などにともなう生息適地の減少が危惧されている。

特記事項

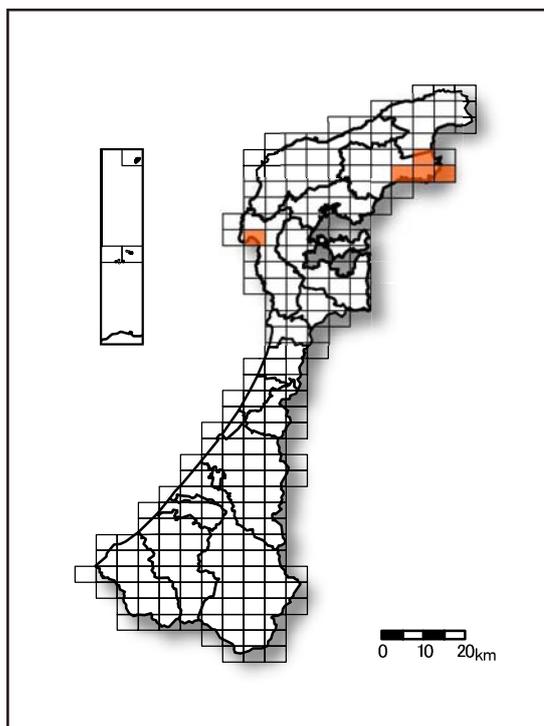
本種の他、九十九湾にはハネナシギボシムシが生息する。

参考文献

坂井恵一. 1999. 富来町増穂ヶ浦で発見されたミサキギボシムシ. 能登の海中林, (10): 6.
 坂井恵一・福島広行・東出幸真・又多政博・西川輝昭. 2001. 能登半島に生息するミサキギボシムシ *Balanoglossus misakiensis* Kuwano (半索動物門、ギボシムシ綱)の生態学的知見. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (7): 11-20



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布

ワダツミギボシムシ

ギボシムシ綱ギボシムシ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

Balanoglossus carnosus (Willey)

選定理由

能登半島が日本海沿岸における最初の生息発見地。

形態

体はミミズ型で全長は最大約80cmに達する。頭部は丸く、襟と生殖翼の接合部は左右の自由端が接し、肛門は体軸と直角に開く。体色は黄色っぽく、強烈なヨウドホルム臭を放つ。

国内分布

インドー西太平洋の熱帯水域の河口部に多く、太平洋沿岸の千葉県館山以南に分布する。

県内分布

能登町の九十九湾を含む小浦から新保、そして恋路の水深2m～10m前後の砂泥底に生息する。ただし、調査が進めば生息地は増えると考えられる。

生態

砂中に潜入し、吻端付近には2～3cmの砂の窪みを、また肛門付近には直径20cm程度のなだらかな糞塊を築く。能登における産卵期は夏。

生息地の条件

海底砂の粒度はミサキギボシムシとほぼ同じく細砂(<0.25)～極細砂(>0.06)が主体であった。

生存の危機

浅い砂泥底が主な生活場所のため、埋立などにもなう生息適地の減少が危惧されている。

特記事項

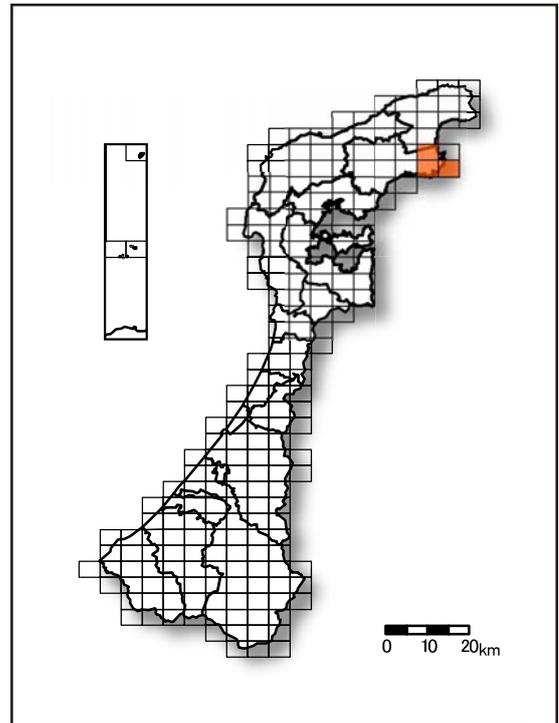
九十九湾にはハネナシギボシムシが生息する。

参考文献

坂井恵一. 2002. 能登半島で見つかったワダツミギボシムシ. 能登の海中林, (16): 6.
 坂井恵一・福島広行・東出幸真・小木曾正造. 2001. 日本海における初記録種, ワダツミギボシムシ *Balanoglossus carnosus* (Willey) (半索動物門、ギボシムシ綱)の能登半島沿岸での生態について. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (7): 1-10



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布

イチモンジハゼ

Tremma garmmistes (Tomiyama)

スズキ目ハゼ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

選定理由 暖海性の小型ハゼ類であるベニハゼ属の一種、日本海には本種だけが分布し、本県が北限の生息地。

形態 全長約5cm。上顎先端から背鰭、眼の後方から尾鰭基部に至る2本の褐色縦帯がある。

国内分布 太平洋沿岸の神奈川県から高知県、九州西岸、日本海沿岸では能登半島と隠岐諸島に分布する。

県内分布 九十九湾で2個体が採集されている。また1999年夏、輪島市鶴入で撮影されたビデオ映像で生息を確認した。

生態 岩礁の岩穴や亀裂の中など少し暗い場所を好む。本県沿岸においても越冬し、周年生息している可能性が示唆されているが、生活史の詳細は不明。

生息地の条件 小型種のうえ、生息場所がやや深いので、スキューバ潜水を用いなければ観察・採集は難しい。

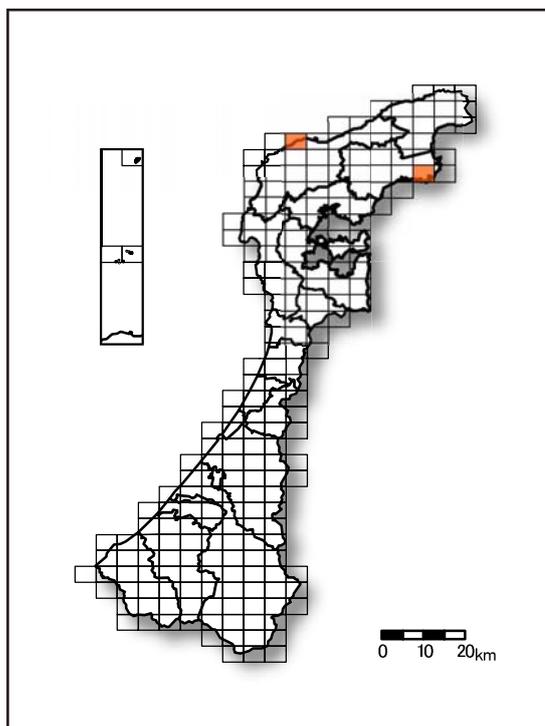
生存の危機 生態が不明なので言及はできない。

特記事項 ハゼの仲間だが、左右の腹鰭は融合せず、吸盤を形成していない。

参考文献 坂井恵一. 1997. 九十九湾で採集されたイチモンジハゼ *Trimma garmmistes* (Pisces, Gobiidae). のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3) : 43-44.



写真提供者：坂井恵一



県内の分布